

Book Review

新版 歯科医療管理 安全・安心・信頼の歯科医療を 提供するために

日本歯科医療管理学会 編
尾崎哲則・福澤洋一・瀬川 洋・藤井一維 編集委員



Reviewer

佐藤 保 Tamotsu Sato

(公益社団法人 日本歯科医師会副会長)

B5判, 256頁
定価(本体6,500円+税)
医歯薬出版刊



最近のニュースや新聞報道をみると、医療関連事故の報道が増加している。この背景には、医療技術の高度化・複雑化・高速化に加え、患者の高齢化・情報の公開性などがある。臨床の現場では、市民の医療不信と権利意識・要求水準の高まりを背景としたトラブルも、少ないとは言えない。

同時に、歯科医療に対する国民や患者のニーズは多様化し、歯科医療に関するさまざまな情報がメディアなどを通じて提供され、国民や患者が歯科医療機関を選ぶ際の選択肢は広がっている。かように近年の歯科医療を取り巻く環境は、より高度な専門性を求められると同時に、社会の動向に合わせた対応が求められる。

「マネジメントの父」と呼ばれるP.F.ドラッカーは、「組織の目標を設定し、その目標を達成するために組織の経営資源を効率的に活用したり、リスク管理などを実施するためにはマネジメントとリーダーシップが必要であり、マネジメントとは『正しい方法で行うこと』であり、リーダーシップとは『正

しいことを行うこと』である」と言っている。歯科医療管理のリーダーとしての歯科医師は、正しいことを正しい方法で行わなければならない。

あらためて本書を読んで、「医療の安全」は医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても医師国家試験出題基準においても基本的に重要な項目に位置づけられていることはもちろんであるが、安全で良質の医療を提供することのできる医師をめざすうえで、系統的に医療安全学・医療管理学を学ぶ意義は大きいことを感じた。また本書は、歯科医療と歯科医療管理に始まり、歯科医療管理事項、歯科医療安全、医療連携および地域包括ケア、かかりつけ歯科医機能の強化まで、広範囲に展開され、まさに、安全・安心・信頼の歯科医療を提供するための良書であることは間違いない。

わが国の高齢化の進展に対して、地域包括ケアの推進が求められており、本書でも触れているが、まさにこの喫緊の課題については、かかりつけ歯科医の役割が重要になる。これは病院に

おける歯科の数が十分でないことが大きな原因であるが、現状の歯科医師の配置状況からは、歯科間、医科歯科間、他職種間で連携したかかりつけ歯科医が役割を果たさなければならない。もちろん、地域のなかでは、住民のために行政や関係する各団体とともに歯科健診などの保健活動等を通じ口腔保健向上の役割を担い、地域の関係機関や他職種と連携し、通院が困難な患者にさまざまな療養の場で切れ目のない在宅歯科医療や介護サービスを提供するとともに、地域包括ケアに参画することなどが、かかりつけ歯科医の役割である。

医療安全や医療管理学は机上の研究分野ではなく、実践的分野である。医療安全は医療の質向上と表裏一体であり、医療安全の実践と良質な医療の提供には医療経営基盤の安定が必須であり、本書がその一助になるものと思う。多くの歯科大学・歯学部学生、臨床研修医、これから開業を目指す歯科医師に読まれることを期待したい。